

# 報告 日本天文学会 2005 年春季年会・ジュニアセッション報告

ジュニアセッション実行委員会  
吉川 真 (宇宙航空研究開発機構)

和歌山大学で行われた日本天文学会年会 (2006 年 3 月 27 日-29 日) において、第 8 回ジュニアセッションが、天文教育普及研究会と高校生天体観測ネットワークの共催、和歌山県教育委員会、和歌山市教育委員会、日本惑星協会の後援で開催された。口頭発表 29 件とポスターのみ発表 5 件があり、合計 34 件の発表があった。また、口頭発表のほとんどはポスターでも発表がなされた。

発表内容は望遠鏡の話から銀河の話まで多岐に渡っており、今回も内容が高度なものが多かった。口頭発表のセッションは、3 月 27 日の午前および午後 6 つのセッションに分けて行われ、和歌山大学システム情報学センターおよび有限会社 Cypress のご協力により、インターネットで中継された。

口頭発表のセッションにおける参加者は 290 名ほどであった (図 1)。口頭セッションの司会は、矢治健太郎氏、谷川智康氏、矢動丸泰氏、有本淳一氏、石田俊人氏、西村昌能氏にお願いした。口頭セッションに続いてポスターセッションを行ったが、会場に人が入りきれないほどの盛況だった (図 2)。なお、ポスターは会期を通して掲示された。

27 日午後の特別講演では、筆者が「小惑星探査機『はやぶさ』が成し遂げたこと」とい

うタイトルで話をした。

また、今回は特別企画として、お昼休みの時間帯に、年会開催地理事 (男女共同参画 WG 委員) の富田晃彦氏および「天文学とプラネタリウム」の皆さんのご協力で、「天文研究人生相談」と称するイベントが行われた。ジュニアセッション参加者が、若手の研究者や国際回線で繋がれたすばる望遠鏡の林左絵子氏と、天文学に関する会話を楽しんだ。



図 2 ポスターセッションの様子

開催地のスタッフの方々には多大なご協力をいただいた。ジュニアセッションに参加していただいた方々や、協力していただいた方々すべてに感謝したい。



図 1 口頭セッションの会場の様子